



横浜市立田奈小学校

平成31年2月1日

学校だより 2月号

校長 二瓶 光代

TEL 045-981-0009



みのたなくん

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/tana>

大縄跳び

～心が一つになっていく姿～

校長 二瓶 光代

6時間目が始まってから絶え間なく、友達を応援する大きな声が校庭から聞こえてきます。桜の木に隠れ、その姿は校長室から見えません。行ってみると2年生でした。春から始めている大縄跳びの練習は、1月に入ると全校挙げてますます過熱してきます。

練習を始めた頃の子ども達は自分の番が来るまで、ほかのクラスの様子を見たり、話したりといろいろなことをしています。列は、ぐにやぐにやと曲がり、前の人との間隔もまちまちです。

ところが記録会が近づくとつれ順番待ちの列は、変化していきます。まっすぐ、しかも短くなっていくのです。「前の人との距離をあげない方が、時間内でたくさんの方が跳べる。」と子ども達が気付いたからです。友達から教えてもらった場合もあるでしょう。みんなの頭も、同じ方を向くようになっていきます。列の前の人や、跳んでいる人を見ているからです。子ども達は、跳び終わると一目散に走って列の最後尾に着き、すぐに跳んでいる友達の方に体の向きを変え、前を見るのです。記録が順調に伸びているか、気にかかって仕方がない様子です。跳んだ後も緊張感を保っていられるのは、「クラスみんなで記録を伸ばしたい。」ということに向かって心が一つになっているからでしょう。

クラスによっては、「記録が伸びる並び方」になっているか、列を回って声掛けする子もいます。その子は列を回りながらも、自分の順番になると何事もなかったように列に入って跳ぶという難しいことをやってのけています。高学年ともなると、跳び続けるのを中断するという決断を自分たちで行い、集まって話し合う姿も見られます。子どもたちは、一人一人様々なよさを持っています。大縄跳びがあまり得意でない子が、辛い思いを抱くことがないよう一人一人のよさが生きる、そして支え合う温かな学級作りを学校全体で進めているところです。縄跳び記録会に今年もたくさんの保護者の方が参観に来てくださいました。ありがとうございました。子ども達の心が一つになる姿をご覧いただけたかと思えます。



【列を回り声掛けしている子】



【短くなっていく列】